

論文番号 53

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Prospective study of the hepatitis B and C viral infection, cigarette smoking, alcohol consumption, and other association with hepatocellular carcinoma risk in Japan

日本でのB型・C型肝炎、喫煙・飲酒その他の因子と肝細胞癌についての前向き研究

執筆者

M Mori, M Hara, I Wada, K Yamamoto, M Honda, J Naramoto

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2000; 151: 131-9

キーワード

飲酒、癌、肝細胞、コホート研究、B型肝炎ウイルス、C型肝炎、リスク評価、喫煙

要旨

1992年の佐賀県K町における健康診断調査受診者、男性981名、女性2,078名を1997年まで追跡し、ベースラインデータであるB型肝炎表面抗原、第二世代C型肝炎抗体、喫煙・飲酒習慣調査とその後の肝臓癌の発症との関連を検討した。追跡期間中に男性14名、女性8名の肝臓癌が発症した。Cox比例ハザードモデルを用いて年齢調整して肝臓癌発症リスクを検討した結果、B型肝炎表面抗原陽性者は7.28倍、C型肝炎ウイルス抗体高値者40.38倍のリスクであった。この研究では、喫煙と飲酒は肝臓癌発症リスクにはなっていなかった。しかし、喫煙は肝臓癌発症と相互作用があり、禁煙指導は肝臓癌発症予防のためにも必要である。